（別紙４）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0972600050		
法人名	社会福祉法人　光誠会		
事業所名	ケアハウスフローラ		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町上柏崎５５１－１		
自己評価作成日	平成２２年１２月２８日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成23年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームでは、「ゆっくり・楽しく・一緒に、ぬくもりのある生活を送りましょう」を理念とし、職員は笑顔で、入居者の気分、ペースに合わせ穏やかな暮らしが送れるように支援しています。その為、入居者の方々も表情が明るく落ち着いて生活しています。単調になりやすいホームでの生活にメリハリをつけ、気分転換や季節感を感じていただく為に、散歩・買い物の他、園芸ボランティアの協力による季節の野菜作りや月一回の外出ツアーを企画しております。外食に行き自分の食べたい物を食べたり、季節の花を観たりし、入居者の方からは楽しそうな笑顔と満足の声を頂いています。また、併設のケアハウス・デイサービスの利用者の方々との交流を図る為、合同レクリエーションや多くの行事に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設から11年が経った歴史のあるグループホームで、ゆったりと穏やかな家庭的な雰囲気がある。職員は「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念に沿って支援ができるよう心掛けると共に、入居者に接する態度、言葉使い等を「心構えチェック表」で振り返り、職員同士で気づきあい声をかけあって、ケアの向上に努めている。入居者は掃除、食事、入浴、散歩などの日課の他、自分のペースで好きなことをしたり、隣接のケアハウスと合同のクラブ活動や食事作りイベントに参加したり、外出ツアー、買い物ツアー、外食ツアーなどたくさんの行事を楽しんでおり、表情が明るい。入居後介護度が下がった例もある。また、地域の婦人部、民生委員の勉強会や見学会、小中学校生の福祉学習、ボランティアを積極的に受け入れ、町を介して介護で困っている人の情報を求めるなど、地域との結びつきを大切にしている事業所でもある。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	⑴	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内に貼付し、毎日申し送りの時間に唱和し確認している。又、日常のサービス提供時やイベント等など、常に理念である「ゆっくり・楽しく・一緒に」を意識し、利用者のペースに合わせ様々な場面で支援している。	全体会議・週ミーティングの中で理念を確認し、職員一人一人が「ゆっくり・楽しく・一緒に」をモットーに支援している。また、職員間で互いにケアに対して気づきあい声をかけあって、理念に沿って支援ができるよう努めている。	
2	⑵	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、自治会の活動（ごみ拾い、敬老会等）にも参加できている。又、地域のお祭りや運動会にも招待されており、良い関係作りができている。	田園地帯という立地がら、近隣の方がホームを訪ねて来る事は少ないが、散歩の途中に挨拶をしたり地域の行事に参加したりして交流の機会を設けている。婦人部や民生委員などの見学も積極的に受け入れ、クラブ活動や催し物などの際にはボランティアの協力もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域婦人部を対象にした認知症勉強会、地域民選委員を対象にした施設見学会を実施し、理解を深めて頂ける活動に取り組んでいる。		
4	⑶	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームに関する全てを報告し、参加者と意見交換をしている。また、一緒にイベントや行事に参加して頂いている。	以前は、会議の場でビデオを使い入居者の様子を伝えていたが、家族からの「上手く伝わらないので一緒に活動をした方が良いのでは」との提案を受けて、今年度は行事の時に開催し、行事終了後に推進会議を行うようにした。会議の中で、通院を職員が行った場合には介護輸送として利用料が発生することについて家族への説明がされた。	推進会議を行事と同時開催にして、家族の参加数が増え、意見も出やすくなる成果があった。家族以外の参加者からも多くの意見を聞き、更に充実した推進会議にしサービス向上につなげてほしい。
5	⑷	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事等、まめに町担当職員と連絡を取り、町のケアマネ会議にも参加し、情報を頂き、常に良い関係に努めている。	成年後見制度や入居者の預かり金の取り扱い方法など町に問い合わせアドバイスをもらっている。入居者の待機状況などの情報交換も行っている。	
6	⑸	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の参加や法人としての委員会活動等で、勉強会を行い、意識を高めている。	以前、ベットからの転倒防止のため4点柵を使用していたことがあったが、職員間で身体拘束について話し合い、離床センサーを設置することで拘束をしない介護ができるようにした。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	苦情事故解決委員会を基に、虐待に関する知識を他職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内でのケアマネ会議等で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約締結時には、契約書･重要事項説明書の内容を全て読みあげわかりやすく説明し、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情への窓口は明確にしている。家族との個人面談を年二回実施し、意見を言いやすい雰囲気作りをしている。運営推進会議に議題で、苦情に関する内容を取り上げた。	運営推進会議･サービス担当者会議の中で家族からの意見を聞く機会を設けている。運営推進会議では、初詣に出かけた際に「前もって駐車場の予約をしておくべきではないか」などの安全面を考慮した家族からの意見が出された。	運営推進会議への家族の参加が増えたことで意見が多く聞かれるようになっているので、事業所として入居者により良い支援ができるように意見を反映させてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者により職員個人面談を年二回実施している。又、運営に関する職員の意見は全体ミーティングで議題として取り上げ、全職員で話し合い運営に反映させている。	管理者･主任と職員の個別面談を月1回実施し、ケアや担当委員会についての相談を受けている。週ミーティングや全体会議の中でもリネン交換の曜日変更などの業務についての要望を話し合い改善に繋げている。他のグループホームへ見学の機会を設け、さらに入居者の立場に立ったケアができるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	代表者により職員個人面談を年二回実施している。管理者により、主任面談を毎月実施している。又、「能力評価シート」や「心構えチェック表」等のアンケートにより、職員個々の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談を実施し、各職員ごとの育成計画を立てている。法人外の研修には、一回以上参加できるように調整している。法人内の研修は、委員会が中心になり他部署の研修にも参加できる環境になっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加している。他施設見学を実施した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から、困っている事、不安な事、要望等を傾聴し受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時等、ご家族の状況や困っている事、不安な事、要望を傾聴し受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設や地域包括支援センターと連携を取り、必要としている支援を見極め出来る限り、家族の負担を軽減できるように援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、業務としてではなく共に生活しているという姿勢を持ち、日常生活の中で知恵を伺ったり、相談を持ち掛け横の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年二回家族との面談を持つ機会を設けたり、面会に来られた時にも、お話しを伺ったり、一緒に本人を支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の施設を利用している馴染みの人に会いに行っている。	併設するケアハウスの馴染みの入居者に会いに行ったり、元同僚やサークルメンバーなどがホームを尋ねてくることもある。馴染みの美容室などにも家族の協力で出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないような声掛けを行い、利用者同士が会話できるようにしている。又、誕生会等の行事を持つことにより他入居者への思いやりの気持ちを持って頂き、関係を維持できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議の通知を出したり、いつでも相談に乗れる体制を取っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の生活歴、趣味等を把握しクラブ活動等に参加している。	日常会話の中から昔の話を聞くなどし、入居者の希望などを察知している。また、生活歴などを参考にして、本人の好みに合っていそうなクラブ活動に参加を勧めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を大切にし、家族の意向を聞きながら、他施設の職員や包括支援センターの担当職員とも連携を図り、実態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体ミーティングを利用し、全職員で話し合いをしている。又、職員が気付いた事を、状況に応じて日々話し合う場を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と年二回面談し、意向を取り入れている。又、月一回の全体ミーティング時に担当者会議を行い、全職員の意見を聞いて、計画書を作成している。	あらかじめ本人・家族からの要望などを聞き、職員全員参加で話し合いがされ計画書を作成している。家族からは、特に希望などがだされないが、殆どの家族はホームでの生活を長く続けられるように現状を維持して欲しいと望んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を見ただけで状態がわかるように会話や行動等を、具体的にそのまま記入するように工夫している。又、ケース記録の内容を区別しやすいように、日中・夜間・家族対応・病院受診の記録を色別で記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋のショート利用サービスの体制が整っている。通院・買い物サービスを提供している。又、他部署と合同で実施しているクラブ活動の要望に合わせ実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小中学校の福祉学習や地域ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所とのより正確な情報交換の為、当ホームが作成した通院シートを利用し、連携強化に努めている。又、定期的に受診しており、家族による通院介助が難しい場合は、職員が通院を支援している。	基本的には家族が通院介助しているが、事情により介助ができない入居者には職員が支援している。職員が「通院シート」に入居者の体調、医師のコメントを記入し、医師、家族、事業所の連携に役立てている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談をし、健康管理のアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、退院に向けての状態把握を行っている。又、病院関係者に退院の為の条件等を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師やご家族の協力が得られない限り、当施設での看取りは行わない事を明確にし、契約時に説明し、理解を頂いている。	「看取りに関する方針」が重要事項説明書に明記されており、契約時に家族に説明している。入居者の体調の変化についての情報を逐一家族に伝え、早めの話し合いを心掛けており、状況に応じて他施設への申し込みについてアドバイスをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時の勉強会や内部研修等を開催し定期的に急変時等の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での消防訓練を行っている。運営推進会議において協力の呼びかけを行っている。又、火災･地震対応マニュアルがある。	年2回隣接するケアハウスと合同で訓練を行っている。訓練には職員全員が参加できるわけではないので、3ヶ月に2回の割合で管理者と職員が災害時の適切な対応の流れを確認しあい、全職員の認識が一致するよう徹底する努力をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	命令的で乱暴な言葉を使わない、はっきりゆっくり話す、子ども扱いは慎むなどの項目で構成された「心構えチェック表」を使い、入居者への言葉かけや接し方を毎月振り返っている。職員は穏やかな口調でゆっくり話しかけていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望により、クラブ活動に参加したり、天気の良い日は希望により散歩をしている。又、外食事には、食べたい物を選んで頂いたり、昼食会でのメニューも希望を聞いて検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、希望を優先できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と美容室に通っている方、職員によりカット、毛染めをしている方等、希望に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の出来る事を活かしながら、無理のないように準備･料理･片付けを職員と一緒に行っている。	日々の食事の献立は隣接するケアハウスの栄養士がたて、主菜副菜が届くので、事業所ではごはんと汁物を作っている。毎月食事やおやつ作りのイベントがあり季節の味を楽しんでいる。外食にも出かけており、食事の内容が豊富で喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事･水分チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、口腔ケアを行っている。又、週に一度入れ歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を活用し、チェック表を基に声掛けを行っている。又、トイレに向かった時には、出来るだけ自分で行って頂き、できないことを介助している。	ほとんどの入居者が昼夜とも自分でトイレに行っている。失敗が心配な入居者の介助やパットの取り替え、汚れ物の始末も自尊心を傷つけないよう配慮して静かにさりげなく行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し、下剤等を使用している入居者もいるが、できるだけ使用しないよう、水分補給や定期的な健康体操への呼びかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意思を確認し、ゆっくり入浴できるよう支援している。又、イベント風呂（ゆず・菖蒲等）を行ったり、入浴剤を入れ、季節感を感じて頂く。	火、日曜日以外毎日午前中入浴できる。入浴するしないは入居者の意志が尊重され、仲の良い人と一緒に入る人もいる。毎月イベント風呂の日があり、ゆず、菖蒲、桃の葉などを入れゆっくり季節感を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医と相談し、その時の状態に応じて睡眠剤等を使用しているが、できるだけ使用しないように一日のリズム作りを心がけている。又、使い慣れた寝具類を使用して頂いたり、居室内の照明調整を希望に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに入っている服薬一覧表を全職員がいつでも確認できるようにしている。又、医師からの伝達等を、通院シートを活用し全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し、洗濯物干し・たたみ、掃除、調理等、一人一人役割を持って頂けるよう働きかけている。又、クラブ活動にも希望に合わせ参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって散歩に行ったり、月一回外出ツアーを行っている。又、ご家族といつでも外出できるような体制を取っている。	入居者の希望で個別、又は数人で連れ立って事業所の敷地内や近くの公園に散歩にでかける。月1回は全員での外出ツアーを行い、行き先は職員が提案する数カ所の中から入居者が決める。外食や買い物ツアーに出かけるのも喜ばれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かっている為、自由に買い物をしやすい環境である。又、買い物や外出時に、お金をお渡しする等、お金の大切さを理解して頂けるよう取り組みを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、昼夜を問わず掃除を行っている。又、館内には季節に合った造花や生花を飾っている。	居間にはテーブルと椅子、こあがりの畳スペースにこたつがあり、みんなで作った干支の飾りや行事を楽しむ入居者の写真、クラブ活動の生花、花鉢が飾られている。廊下にも昔懐かしいおもちゃやクラブ活動の押し花の作品、職員の顔写真が飾ってある。事業所全体が清潔で家庭的な雰囲気である。インフルエンザ予防の策として、湿度調整のため、随所に濡れタオルが掛けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチがおいてあったり、畳スペースに炬燵が置いてあるので、それぞれの方が思うように過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が希望する時には、居室の家具の配置替えを一緒に行っている。	居室毎に壁紙とカーテンの色が変えてあり、入居者が自室を認識しやすいよう配慮してある。室内は入居者の好みの家具や道具が置かれ、クラブ活動の作品、家族の写真、旅の写真、誕生会の色紙などが飾られている。毎朝入居者と職員とでする掃除はすみずみまで行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「トイレ」と書いてあり、居室には表札をつけ間違わないよう工夫している。 又、クラブ活動等、行事がある際はホワイトボードにてお知らせしている。		